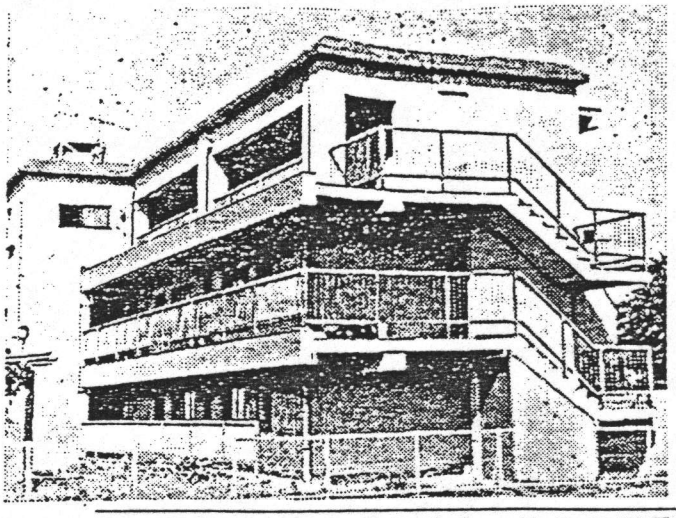
日新聞　1987年(昭和62年) 6月18日(木曜日)

市、公共施設を総点検

川越の教職員住宅石綿使用

古い建物で使用？

「考える会」は28日に集会



川越市の所有する教職員住宅（同市藤原町二七の二）の一天井に発がん性の石綿（アスベスト）が使われていた問題

川越市の所有する教職員住宅（同市藤原町二七の二）の一天井に発がん性の石綿（アスベスト）が使われていた問題（五月一日撤去）で同市は十七日、今月中に市内の公共施設のアスベストの使用有無を調べる総点検を実施する方針を固めた。自治体が公共施設のこういった総点検を行うのは全国で初めて。

現在、市内の公共施設は小、中学校、商業高、公民館、診療所、市営住宅、図書館など約八十カ所（公園などの屋外施設は除く）。このうち、市営住宅については不使用が確認済み。だが、学校の中には三十年代に造られた建物も残っており、アスベストが使われている可能性がある。

市は、アスベストの使用が確認された場合、老朽化の激しいものから逐次、撤去したい、としている。

一方、教職員住宅の居住者らでつくる「川越教職員住宅アスベスト被害を考える会」（内田秀人事務局代表）では、今月二十八日に集会を開き、アスベストについての学習会などを行う。

また、来月早々、同市と同市教委に対して、①多大な不安を与え、今後も与えることに対しての陳謝の意を書面で回答することの避難した人の引っ越し費用、転居したために要した生活費の完全補償③市として、アスベスト被害に対してパンフレットの作成、講座の開催など教育活動を徹底すること――など、八項目を要求する。

「考える会」のある男性は、「明掃除して、夕方帰宅すると床が白くバラバラとほこりのようになっていた。精神的にも肉体的にも不安」と語っている。

アスベストが天井に吹きつけてあった教職員住宅

アスベストは、耐熱、防音性に優れており、三十年代から高層ビルや一般住宅で、屋根、天井、壁などに用いられた。日本はアスベストの最大消費国だが、人体に対する危険性が指摘され、五十年に特定化学物質障害予防規則などで吹き付けが禁止。近年、沖縄県庁舎や東京都体育館で大規模な撤去作業が行われた。

アメリカでも八年前に、すべてのアスベストの使用が禁止され、昨年、アスベスト災害被害制御法を制定、今夏、全米公立小、中、高三万校のうち危険であると思われる一万校についてのアスベスト撤去作業を行う。

アスベスト研究で著名な広瀬弘忠東京女子大教授によると、アスベストを使う仕事を続けていると、約十年でせきが出て息切れが激しくなり、肺が縮小して死亡するアスベスト肺（じん肺の一種）になる。汚染が少ないところでは二十―四十年後に肺がんに至る、とも言われる。